

追悼 ユニークな宮崎地方の医療史を編纂した田代逸郎先生

宮崎医科大学名誉教授 木下和夫

本会評議員田代逸郎先生は平成十年六月十四日、自宅でご家族の手厚い看護の中を安らかに逝かれました。享年七十五歳でした。

先生は昭和二十二年九州高等医学専門学校を卒業後、宮崎でインターンをされ、その時産婦人科を専門とすることを決められました。しばらく勤務医をなさった後、昭和二十八年学位をとられ、宮崎市内で開業されました。

先生が医史学の本格的勉強を始められたのは開業後であり、墓地を整理するための調査がきっかけであったとのこと。やるからにはこれをライフワークとすることを決意されました。その後地域医療の傍ら、持ち前の集中力と持久



故 田 代 逸 郎 先 生

力で、特に宮崎地方の医史学に取り組みました。宮崎市郡医師会は創立八〇周年記念事業の一つとして会史の発行を計画し、田代先生の編集で発行されました。これは医師会の歩みばかりではなく、宮崎市と宮崎郡の医療の変遷を広い視野で捉えたものです。これに引き続いて昭和四十九年宮崎県医師会の事業の一端として『宮崎県医史』の編纂が承認されました。これは医学史に関心の深かった内田会長が田代先生の学識力量を知り、より広く詳しい『宮崎県医史』を田代先生を中心に編纂しようと思図されたのです。

「雄大な理想と緻密な企画の下に、日向先哲の偉業を偲び、碩学の気風に接し、吾々医人が明日の医学に対処する道標を思索したい」というのが田代先生の大きな目標でした。

本は県内外の医師、郷土史研究家の協力を得て上下二巻二四八五ページの大冊として昭和五十三年三月完成しました。田代先生自身多くの部分を執筆なさいました。先生はまた人に喜んで仕事をさせるのが大変お上手でした。発案以来四年という短期間で完成したのは、田代先生のご努力の賜にほかなりません。先生は「週に十日働いた」と書いていらっしやいます。

『宮崎県医史』は宮崎県の医療史に関するユニークな百科全書です。医療の倫理が最初の部に三十四ページも割かれているのが目を引きます。そのほか高鍋藩での死体解剖、牧水記念館にある種痘人名録、明治初期の宮崎医学所(校)などなど新しい発見も含んで多岐にわたっています。

この『宮崎県医史』は多方面から注目され、昭和五十八年には宮崎日日新聞文化賞を受賞し、昭和五十九年に田代逸郎先生は日本医師会最高優功賞を受賞されました。また、米国医学図書館、カリフォルニア大学医学部図書館に収められました。

「県医史」発行の年には第七九回日本医史学会総会が内田 醇会長のもとで宮崎市で開催されました。このお膳立ても田代先生がおやりになったと思います。それと同時に宮崎県医史懇話会が発足し、その後毎年総会と医史跡探訪が開催されています。一昨年十一月東京の医史跡探訪が田代先生とご一緒できた最後でした。

田代先生は地域医療はもちろん医師会のために、また医学教育、看護婦教育にも長年貢献されました。

先生には医学の道をついだお二人の立派な子息がおいでになり、きつと『医史学』の方でも後をお継ぎになるでしょう。最後に生前の御厚誼に深く感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。